

ヒアリに刺された場合の対応について

【ヒアリの特徴】



- ・ 体長 2.5～6mm（様々な大きさの働きアリがいます）
- ・ 全体は赤茶色で腹部が黒っぽい赤色
- ・ 腹部末端に毒針を持っています。
- ・ 南米原産ですが、北米、中国、オーストラリアなどで定着しています。日本には定着していませんが、外国から運ばれてきたコンテナの中などで見つかっています。
- ・ 大きな土でできたアリ塚（巣）を作り、攻撃性が強く、棒などで巣をつくと出てきて、集団で襲いかかります。

【ヒアリの駆除方法】

市販の殺虫剤や熱湯で駆除が可能です。

【ヒアリに刺された場合の症状】

ヒアリの毒への反応は人によって大きく異なります。刺された時には、20～30分程度は安静にし、体調の変化がないか注意してください。



○軽度/刺された部位の痛みやかゆみ

刺された瞬間は熱いと感じるような激しい痛みが走ります。やがて、刺された痕が痒くなります。10時間ほど経つと膿ができます。



○中度/じんましん

刺されてから数分から数十分後には刺された部位を中心に腫れが広がり、部位的または全身にかゆみをともなう発疹（じんましん）が現れることがあります。



○重度/呼吸困難・血圧低下・意識障害

刺されて数分から数十分の間に息苦しさ、声がれ、激しい動悸やめまいなどを起こすことがあります、進行すると意識を失うこともあります。これらの症状が出た場合には重度の即時型のアレルギー反応「アナフィラキシー」である可能性が高く、処置が遅れると生命の危険も伴います。

軽度の症状のみであり、症状が悪化する様子がなければゆっくりと病院を受診しても大丈夫です。容体が急変したときは速やかに最寄りの医療機関を受診してください（救急受け入れのある病院であればなお良いです）。

アドレナリン自己注射キット「エピペン」について

特にアナフィラキシーの危険がある方は、前もって医師に相談し、アレルギー反応を緩和するために「エピペン」を用意しておくことができます。エピペンについては、かかりつけの医師等にご相談ください。

【相談窓口】

名古屋市内の事業所でヒアリのようなアリを見つけた際には、事業所のある区の保健所 生活環境課 環境衛生担当に相談してください。